

水道管の凍結対策

水道管は、気温がマイナス4℃以下になると凍結しやすくなります。水道管が凍結してしまうと、水が出なくなるばかりでなく水道管が破裂するおそれがあります。早めに凍結防止の対策を行いましょう。

凍結しやすいところ

☆屋外でむき出しになっている（保温材が損傷した場合も同様）

屋外でむき出しになっている水道管は凍結しやすい場所です。風当たりの強い建物の北側は特に注意が必要です。また、保温材が損傷していたり、壁と保温材に隙間がある場合、そこから凍結する危険度が高くなります（公園の蛇口も注意が必要です）。



給水管がむき出しになっている

☆給湯器本体および給湯器回りの給水管・給湯管

給湯器本体および給湯器回りの給水管・給湯管や給水元栓も凍結しやすい場所です。一般的な給湯器には凍結防止機能が組み込まれています。ただし、電源プラグを抜くと作動しないため、ご注意ください。

詳しくは、機器取扱い説明書でご確認ください。



☆学校・集合住宅等の貯水槽流入管・流出管

貯水槽施設周辺の配管部が凍結すると、施設全体が水道を使えなくなる可能性があります。

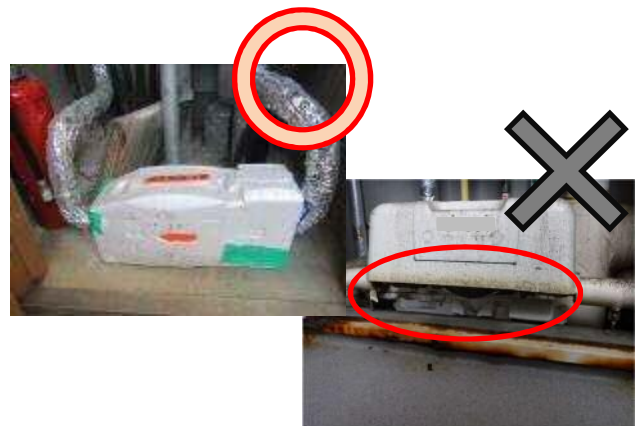
一般家庭に比べ、凍結箇所の特定や解凍するのに時間を要するため、施設への影響時間が大きくなります。



☆パイプシャフト内の水道管・水道メーター

マンション等のパイプシャフトの多くは通風孔や隙間があるため、冷風が中で循環する状態が続くと、水道管や水道メーターの凍結につながります。

また、水道管が露出していたり、水道メーターの保温カバーが破損していたりするとさらに凍結しやすくなります。



保温カバーが外れている

凍結させないために

凍結を防止するためには、水道管や屋外水栓を保温することが有効です。

むき出しになっている水道管は、発泡スチロール製の保温材の取り付けが効果的です。ただし、保温材が損傷していたり、外れていたりしますと凍結しやすくなりますので、定期的に点検・取替をお願いします。さらに凍結防止には、凍結防止ヒーターの取り付けがより効果があります。

破裂の被害を防ぐために

破裂に早急に対応するため、止水栓の位置を普段から確認し、操作できる状態にしておくことが重要です。また、人がいない施設で水道管が破裂すると、施設の被害や周囲に迷惑をかける場合があります。凍結する恐れのある冬期間、空家やマンション・アパートの空部屋、普段人がいない施設など常時水道を使用しない場合は、止水栓を閉めておくことで破裂による被害を防ぐことができます。

止水栓の位置を確認してください

メータボックス内の止水栓の例



止水栓の例



凍結や破裂してしまったら

蛇口や水道管が凍結してしまったら、自然に解けるのを待ってください。水道を早く使用したい場合は、蛇口を全開にしてタオル等をあてて、上からぬるま湯（約 50℃）をかけてゆっくり解凍してください。

※熱湯をかけると水道管が破裂する恐れがありますので、熱湯はかけないでください。